

方剂名	効能	生薬組成	
		主治および証	病機 方意
<b>癰瘍剤 内癰剤 5</b>			
らんびけおとう 闌尾化癰湯	行気活血・瀉熱通腑	金銀花 15g・牡丹皮 10g・大黃 10g・川楝子 15g・桃仁 10g・木香 10g・延胡索 10g 水煎し服用する。1日1剤を頓服するか分2で服用する。	
天津南開医院	<p>&lt;主治&gt; 急性虫垂炎（闌尾炎）、癰滯期 腹満、食欲不振、悪心、右下腹部の持続性鈍痛、あるいは脹った痛み、および圧痛、大便是正常あるいは便秘、尿色は正常あるいは黄、舌質は正常あるいは瘀斑がある、脈は弦数などを呈す。</p> <p>&lt;病機&gt; 急性虫垂炎（闌尾炎）の初期で、気滞血瘀を呈する癰滯期に相当し、未だ熱証は明らかでない。多くの場合、腹痛は心窩部や臍周辺に初発し、数時間から1～2日で右下腹部に変化し、圧痛や抵抗を伴うようになるが、この経過は気滞から血瘀が形成されたことを示している。 熱毒の邪が胃腸に蘊結して腑気を阻滯するので、腹満、食欲不振、悪心、便秘、脈が弦緊などが生じる。気滞から血瘀を引き起こすと、右下腹部の持続性疼痛、圧痛、抵抗や舌の瘀斑などが顕著になる。熱証はまだ明らかでないが、原因は熱毒の蘊結であるから、微熱、熱感、尿が黄色い、舌質が偏紅、舌苔が微黄などがみられることもある。</p> <p>&lt;方意&gt; 急性虫垂炎の癰滯期で、気滞血瘀が主体で熱証は明らかでないの、行気活血を主に瀉熱通腑を補助とする。理気止痛の川楝子・木香・延胡索と活血化瘀の桃仁・牡丹皮・延胡索・大黃は、行気活血して気滞血瘀を除く。清熱解毒の金銀花、清熱涼血の牡丹皮、瀉熱通腑の大黃は、熱毒を清泄して原因を除く。</p> <p>&lt;参考&gt; 血瘀のために腫塊を形成したときには、紅藤 30～60gを加える。</p>		
らんびせいかいとう 闌尾清化湯	清熱解毒・行気活血	金銀花 30g・蒲公英 30g・牡丹皮 15g・大黃 15g・川楝子 9g・桃仁 9g・生甘草 9g・赤芍 12g <闌尾化癰湯の組成—（延胡索・木香）+（蒲公英・生甘草・赤芍）>に相当する。 水煎し服用する。1日2剤を朝晩に服用する。	
天津南開医院	<p>&lt;主治&gt; 急性虫垂炎（闌尾炎）、蘊熱期 微熱あるいは午後の発熱、口渇、右下腹部のつよい疼痛、尿が濃い、便秘、舌苔が黄、脈が数などを呈す。</p> <p>&lt;病機&gt; 急性虫垂炎（闌尾炎）が、初期の癰滯期から進行して熱証がかなり顕著になり、微熱あるいは午後の発熱、尿が濃い、口渇、舌苔が黄、脈が数などを呈し、血瘀も明らかになって疼痛が激しくなる。</p> <p>&lt;方意&gt; 急性虫垂炎・蘊熱期で、熱毒と気滞血瘀が共に明らかであり、清熱解毒と行気活血を同時に施行する必要がある。 清熱解毒の金銀花・蒲公英・大黃・生甘草および清熱涼血の牡丹皮・赤芍は、熱毒を清瀉し、活血化瘀の牡丹皮・桃仁・赤芍・大黃と理気止痛の川楝子は、行気活血によって気滞血瘀を消除する。大黃は瀉下通腑によって胃腸の壅滯を除くと共に、熱邪の排出路を開く。</p> <p>&lt;参考&gt; 急性虫垂炎の蘊熱期には、湿熱が主体になる病証もあり証候は以下のようなものである。 頭のふらつき、めまい、体表部に熱感がない、つよい悪心、嘔吐、口渇はあるが水分は欲しくない、腹満がつよく、痞えて苦しい、身体がだるい、泥状便ですっきり排出しない、尿が黄色で混濁、舌苔が黄膩などである。</p> <p>加減法 熱証が強いときには、本方（闌尾清化湯）に黄連・黄芩を加えて、清熱燥湿を強める。 湿証が強いときには、本方（闌尾清化湯）に芳香化濁の佩蘭・白豆蔻・藿香梗と、利水清熱の木通を加えて、湿熱を分清する。</p>		
らんびせいかいとう 闌尾清解湯	清熱解毒・行気活血	金銀花 60g・蒲公英 30g・牡丹皮 15g・大黃 24g・川楝子 9g・生甘草 9g・木香 6g・冬瓜仁 30g <闌尾化癰湯の組成—（延胡索・桃仁）+（蒲公英・生甘草）>に相当する。 水煎し服用する。1日2剤を分4で服用するか、1日4剤を昼夜に服用する。	
天津南開医院	<p>&lt;主治&gt; 急性虫垂炎（闌尾炎）、熱毒期 発熱、口渇、顔面紅潮、目の充血、口唇の乾燥、悪心があり食べられない、右下腹部の疼痛とつよい圧痛や抵抗、便秘、尿が濃い、舌質が紅絳あるいは尖紅、脈が洪滑数あるいは弦数で有力などを呈す。</p> <p>&lt;病機&gt; 急性虫垂炎（闌尾炎）の熱毒が熾盛になった時期で、病状は重度であり腸結（腸梗塞）や熱厥（中毒性ショック）などを引き起こす可能性がある。腑気不通による悪心、不食、便秘などと、顕著な熱証がみられるのが特徴である。</p> <p>&lt;方意&gt; 急性虫垂炎の熱毒期で、熱毒熾盛に気滞血瘀を伴っているの、清熱解毒を主体に行気活血を補助とすべきである。 清熱解毒の金銀花・蒲公英・大黃・生甘草を大量に用い、清熱涼血の牡丹皮と排膿の冬瓜仁で補助し、瀉下の大黃で熱邪の出路を開き、熱毒を強力に清泄する。活血化瘀の牡丹皮・大黃と理気止痛の川楝子・木香は行気活血して、気滞血瘀を除去する。</p> <p>&lt;参考&gt; 加減法 高熱、強い口渇などを呈するときは、清気分熱の石膏 30gと、生津の天花粉 15gを加える。</p>		